

まちの事業『平成14年度の主な事業の予算額』

1 火葬場建替事業費
2億9,880万円

現在の火葬場は、昭和48年から供用開始し28年が経過しています。この間、年次的に施設の維持補修などを行って管理に努めてきましたが、施設全体の老朽化が著しく、火葬炉も旧式なため、環境への影響や周辺・施設の景観などに配慮しながら火葬場を建て替えるものです。

建て替えは、平成14・15年度の2カ年事業とし、平成14年度は用地取得や実施設計、本体の基礎工事など、平成15年度は、本格的な建設工事を行い、供用開始は平成16年度からの予定です。

2 市営住宅（桜木団地）建替事業費
1億9,180万円

市営住宅桜木団地は、平成9年度から建て替えを行ってきました。

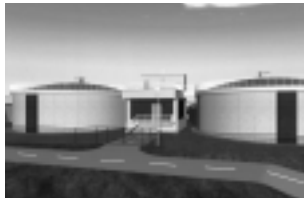
平成12年度に旧桜木団地（平屋）10棟40戸を解体。昨年度から2カ年の継続事業として、1棟45戸（中層耐火構造5階建て）が8月中旬に完成し、10月1日からの入居を予定しています。

これにより、市営住宅3棟・130戸の建て替えがすべて完了します。



3 柏木配水池建設事業費
2億7,700万円

水需要の変動を調整する機能の強化と一部地区の低水圧の解消、災害その他非常時の給水の安定性の確保を図るため、本年度から平成15年度までの継続事業として、新たに柏木町2丁目の高台に、管理棟（RC造り地上2階・地下1階）1棟と配水池（PC造り円形外径20.1m、有効水深5m、容量1,500立方m）2池を建設します。平成14年度に、配水池本体の工事、平成15年度は、周辺整備などを行います。



▲柏木配水池の完成予想図

4 登別市・広州市観光交流都市調印に係る経費
175万円

市は、昭和61年に『国際観光レクリエーション都市』宣言した後、海外から誘客PR活動を実施しています。

現在、登別温泉の海外からの宿泊客は7万人を超え、その大半が香港や台湾などの東アジア中心の観光客です。

昨年、中国・広州市から広州市関係者や政府団代表一行、地元テレビ局などが相次いで登別市に訪れました。これをきっかけに、両市の市民相互の観光交流を通じて、理解と友好を深めるとともに、相互の観光振興を図り日中親善を促進するため、観光交流都市として5月20日(月)に広州市で調印します。



▲昨年12月18日に広州市副市長が来登した様子

5 知里幸恵生誕100年記念経費
165万円

平成15年は、アイヌ民族に伝えられるカムイ・ユカラを初めて日本語訳した『アイヌ神謡集』を残し、わずか19歳でこの世を去った知里幸恵さんの生誕百年にあたります。

この知里幸恵さんの偉業をたたえようとする方たちにより生誕百年祭が企画されていますので、市としてもより多くの市民のみなさんに知っていただく良い機会ととらえ、平成15年度の記念行事に備え、これを支援します。



▲『アイヌ神謡集』の著者・知里幸恵さん

6 地域総合整備資金貸付金（彩咲会）
5,500万円

市は、地域総合整備資金貸付金を活用する老人福祉施設建設事業として、「社会福祉法人彩咲会」が建設するケアハウスとデイサービスセンターに支援していきます。

市の「高齢者保健福祉計画」では、すべての高齢者が生きがいをもって住み慣れた地域で、自立した生活を送り、人間としての尊厳を保ちながら、人生をまっとうできるまちづくりを目指しており、ケアハウスとデイサービスセンターの整備は主要施策の一つとして位置付けしています。

この施設は、平成15年2月に完成し、同年4月に富岸町1丁目にオープンする予定です。